



Title	WHOニュース 4月/ 5月/6月
Author(s)	林, 正幸; 渡部, 雄一
Citation	目で見るWHO. 2025, 94, p. 24-29
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/103615
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

4 月

April

WHO の新指針：メンタルヘルス政策の緊急な改革を求める

WHO は、各国がメンタルヘルスに関する政策や制度を改革し、強化するための新たなガイダンスを発表。世界中でメンタルヘルスサービスは依然として資金不足であり、国際人権基準を満たさない時代遅れの制度モデルに依存。

死産や乳幼児死亡を減らすための数十年にわたる努力が脅威に

2000 年以降、世界中で子どもの生存率向上に向けた持続的な投資が続けられた結果、子どもの死亡数は半分以下に、死産数は 3 分の 1 以上減少、しかし進展は鈍化。主要なドナーが今後大幅な資金削減を行うと発表または示唆したことによる。こうした削減は、子どもの高い死亡率を記録している地域に深刻な影響を与えていると、機関間グループは警告。

Gavi ワクチンアライアンスは子どもの生存のための生命線；十分な資金が必要

ワクチンは人類の偉大な功績のひとつで、過去 50 年間で推定 1 億 5400 万人の命が救われた。この成功は Gavi ワクチンアライアンスへの投資による。すべての子どもには健康の権利があり、命を救う予防接種をすべての子どもたちに継続的に提供できるよう、Gavi への投

資を継続することが重要。

ワンヘルスへの統一された呼びかけ：世界的な影響をもたらすための実施、科学、政策、投資の推進

人、動物および環境の健康におけるグローバルリーダーとして、国連食糧農業機関 (FAO)、国連環境計画 (UNEP)、世界保健機関 (WHO)、国際獣疫事務局 (WOAH) の 4 者による連携は、ワンヘルス・アプローチの推進に必須。薬剤耐性、人獣共通感染症、食品安全リスクや気候変動に関連する健康への脅威まで、世界にはもう待つ余裕はない。

国連機関、援助削減は妊産婦死亡の防止を脅かすと警告

国連「妊産婦死亡率の傾向」によると、世界的妊産婦死亡率はこの 23 年の間に 40 % 減少。基本的な医療サービスへのアクセスが改善されたことによる。しかし人道支援の資金削減が世界中の多くの地域で不可欠なヘルスケアに深刻な影響を及ぼしており、各国が妊産婦、新生児、そして子どもの健康のための重要なサービスを縮小せざるを得ない状況。

WHO が真菌感染症の検査・治療に関する初の報告書を発行

WHO は、侵襲性真菌症の治療に不可欠な医薬品および診断ツールの深刻な不

足に関する初の報告書を公表。真菌感染症は、重病の患者や免疫機能が低下している患者に特に大きな影響を与えるが、抗真菌薬が今後 10 年以内に承認される見込みはほとんどない。幅広い真菌の優先病原体に対するより迅速で、より正確かつ安価で、より簡便な検査、そして医療現場やその近辺で使用できる診断ツールが必要。

患者安全に関するグローバルサミット

第 7 回 患者安全に関するグローバル閣僚級会合において、『質の高いケアを提供し、ヘルスアウトカムの改善を推進する、強靱で患者中心の公平なヘルスシステムの基盤となる柱として患者安全を確立により、患者安全を普遍的な必須事項とすることを求める』マンダロン宣言 (Mandaluyong Declaration) を採択した。

WHO、パリ栄養サミットで大胆な取り組みを発表

栄養不良は依然として世界的な危機であり、すべての国に影響を与えている。WHO は、栄養サミット (N4G) において、8 つの主要分野にわたる 13 の野心的な公約を発表した。

注) 本サマリーは、WHO 発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう 標題及び冒頭部分を仮訳しているものなので、詳細内容については、QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリース、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。



女性の健康とジェンダー平等に対する世代を超えた取り組み

第 69 回 国連婦人の地位委員会では、世界各国がハイレベル政治宣言を通じてジェンダー平等への取り組みを再確認した。宣言では、女性の権利に対する世界的な取り組みを改めて表明し、後退を認め、生涯を通じて達成可能な最高水準の身体的およびメンタルヘルスの権利の保護を含む、緊急かつジェンダーに対応した政策行動を呼びかけた。

各国の医療システム、深刻な混乱に直面

WHO は、健康のための政府開発援助 (ODA) の突然の停止や削減により、調査対象の 70 % の国々で保健サービスの混乱が報告されているとして警告を発した。

髄膜炎に関する新ガイドライン

WHO は、髄膜炎の診断、治療、ケアに関する初のグローバルガイドラインを発表した。

「援助削減」：マラリア対策の進展が危機に！

近年の資金削減の影響により、地域社会やプログラムが打撃を受け、マラリアの抑制と根絶に向けた取り組みが危機に瀕している。WHO とパートナーは、各国政府と市民社会が持続的な資金を確保し、最もリスクの高い人々を保護するための総合的な解決策を提供できるよう、引き続き支援に尽力する。

ポリオ：公衆衛生上の緊急事態 (PHEIC) をさらに 3 ヶ月継続

3 月にポリオウイルスの国際的拡大に関する国際保健規則に基づく緊急委員会 の第 41 回 会合が開催され、事務局長は 4 月 9 日に WPV1 と cVDPV などポリオ感染拡大の状況は、依然国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態 (PHEIC) であると判断。

近年の妊産婦死亡率の推移：WHO、ユニセフ他の推計

近年においても、毎日 700 人以上の女性が妊娠・出産に関連する予防可能な原因で死亡。持続可能な開発目標

(SDG) の目標は、2030 年までに妊産婦死亡率を出生 10 万人当たり 70 人未満に削減することで、国連の「妊産婦死亡率推定に関する機関間グループ (MMEIG)」は、新たな推定値の算出には過去の推計から改良された入力データと手法を使用し、国際比較が可能な最新の妊産婦死亡率推計値とその傾向を示した。

「パンデミック協定」、5 月の世界保健総会で採択予定

WHO 加盟国は 3 年以上にわたる集中的な交渉の結果、協定草案を策定し、本年 5 月に開催される世界保健総会で検討される予定。

この提案は、各国が自国の国境内で公衆衛生問題に対処する主権を有することを確認し、協定案のいかなる条項も、WHO に国内法や政策を指示、命令、変更、規定する権限を与えたり、各国に渡航者の入国禁止や受け入れ、ワクチン接種の義務付けや治療・診断措置の実施、ロックダウンの実施など、特定の措置を義務付ける権限を与えたりするものと解釈されてはならないと規定している。

4月のWHOファクトシート改訂項目

以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。
<https://japan-who.or.jp/factsheets/>

- ・砂塵嵐(SDS) ・エボラウイルス病 ・チクングニア熱 ・D型肝炎 ・E型肝炎 ・カンジダ症 ・妊産婦死亡率
- ・妊娠高血圧症候群 ・シャーガス病(アメリカ・トリパノソーマ症) ・ポリオ ・白癩 ・髄膜炎
- ・地域医療保険制度 ・認知症 ・プライマリヘルスケア ・ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC)
- ・RSウイルス ・自殺 ・帯状疱疹



薬剤耐性の主因は抗生物質の過剰使用

薬剤耐性 (AMR) は現代医学の多くの進歩を台無しにする危険性がある。WHO は、抗生物質のグローバルな使用状況に関する分析結果を公表。監視対象抗生物質は AMR に不均衡な影響を及ぼしており、抗生物質が不要な場合やアクセス抗生物質で十分な場合にその不適切な使用を回避するため、さらなる対策が急務。

GOARN 設立 25 周年：グローバルな健康緊急事態への準備と対応の推進

GOARN (Global Outbreak Alert and Response Network) は 25 周年を迎える。このネットワークは健康上の緊急事態に対する世界的な闘いの最前線に立ってその準備と対応に重要な役割を果たし、SARS、エボラウイルス病、マールブルグウイルス病、COVID-19、mpox、コレラ、黄熱病などのアウトブレイク、洪水や地震などの災害、戦争など、世界的な公衆衛生上の重大な事象に対処してきた。

WHO：マラリア撲滅強化を呼び掛け

2025 年の資金供給削減により、流行国でさらに何百万人もの命が危険にさら

されるおそれがあると WHO は警告。

WHO、ユニセフ、Gavi が警告、「ワクチンで予防可能な疾病の増加が、長年の進歩を脅かす」

世界予防接種週間で WHO、ユニセフ、Gavi ワクチンアライアンスは、誤った情報、人口増加、人道危機、資金削減が長年の予防接種取り組みを脅かし、人々を危険にさらされていると警告。

健康格差に関するグローバル報告書

WHO が発表した「健康の公平性を左右する社会的決定要因に関する世界報告書」では、人々の不健康は多くの場合、質の高い住宅、教育、雇用機会の欠如など、保健分野以外の要因にあると強調。

グローバル喘息レポート

手頃な価格で品質が保証された喘息治療薬をすべての人に提供することの緊急性を強調。グローバル喘息ネットワーク (GAN) は「グローバル喘息レポート 2025：患者の体験談」を発表。

「手袋は手指衛生の代わりにはならない」 - WHO からの注意喚起

医療用手袋は、感染の予防に重要な役割を果たすが、適切な手洗いの代わりにはならない。手洗いは、感染症の伝播を防

止し、高品質で清潔かつ安全な医療を提供するための最も効果的で、経済的で、普遍的な手段の一つ。

WHO、2024 年成果報告書

第 78 回 世界保健総会に先立ち発表されたこの報告書は、3 つの 10 億目標の進捗状況など、WHO の 2024 年度プログラムの実績を中間評価し、2019 年～2025 年の第 13 次 総合事業計画における戦略的優先事項の進捗状況を概観。

世界の看護の現状報告書 2025

世界保健機関 (WHO)、国際看護師協会 (ICN) およびそれらのパートナーが発表した「State of the World's Nursing 2025」報告書によると、世界の看護師数は増加するものの、地域や国によって供給に大きな格差が残っている。

交通安全と健康増進には、歩行と自転車の安全確保が不可欠

「歩行と自転車を安全に」をテーマにした第 8 回 国連グローバル交通安全週間にあたり、WHO は、政府がアクティブな移動の安全性を高めることを支援するための新しいツールキットを発表。

WHO 事務局長、「記憶に残る」グローバルヘルス資金削減の激化を嘆く

WHO は、世界中で長引く紛争が病気

注) 本サマリーは、WHO 発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう 標題及び冒頭部分を仮訳しているものなので、詳細内容については、QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリース、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。



のアウトブレイクを助長し、公衆衛生に深刻な脅威をもたらしていると警告。テドロス事務局長は「記憶に残る世界最大のグローバルヘルス資金調達混乱の真っ只中にいる」と述べ、最後に「平和は最善の薬である“peace is the best medicine”」と付け加えた。

予算削減により、ほぼ根絶された病気が再流行の危険に！

WHO は、グローバルヘルスへの資金削減により、ワクチンによってほぼ根絶された病気のアウトブレイクが増加していると警告。

パプアニューギニア、トラコーマを撲滅

トラコーマは、顧みられない熱帯病(NTD)であり、世界最大の感染性失明原因。第78回世界保健総会で、パプアニューギニアは公衆衛生の分野における画期的な成果としてトラコーマを根絶したと公式認定された。

WHO、トランス脂肪酸除去政策を実施している4カ国を認定

世界保健機関(WHO)は、食品から工業的に製造されたトランス脂肪酸を排除する取り組みが模範的であると、オースト

リア、ノルウェー、オマーン、シンガポールの4カ国を認定。

世界保健統計2025：グローバルヘルスの進展の鈍化を警告

WHO は、世界保健統計報告書2025を発表し、COVID-19 パンデミックが、人命の損失、寿命、そして全体的な健康とウェルビーイングに与える深刻な影響について明らかにし、2019年からのわずか2年間で、世界の平均寿命は1.8年短縮し、10年間にわたる健康の進歩を逆転させたと指摘。

第78回世界保健総会、パンデミック協定を全会一致で採択、ほか

今総会で、パンデミック協定を全会一致で採択。決議の中には、政府間作業部会を通じて、病原体アクセスと利益配分システム(PABS ; Pathogen Access and Benefit Sharing system)を確立する協定の付属文書を起草・交渉するプロセスの開始が含まれている。60カ国が批准すると協定は発効する。

他の主な決定は以下の通り。

本年度基本事業予算42億米ドルを承認。各国の分担金の段階的20%増額を承認。「国際保健規則IHR(2005)」の

実施に関する事務局長の報告。ウクライナの医療システムの回復と強化などを継続する決議案を承認。パレスチナ占領地域の現在の健康状況に関する事務局長の報告を承認。ポリオ撲滅に向けた戦略の2029年までの延長を支持し政治的・財政的コミットメントを要請。天然痘根絶に関する報告を承認。実験室の生物安全性の強化に向けた取り組みに関する報告を検討。「核戦争が公衆衛生に及ぼす影響」と題する決議に合意。規格外および偽造医療製品によるグローバルヘルス上の脅威に関する加盟国メカニズム報告書を完成させるため、追加の時間を認める決定を承認。など。

WHO はガザの医療制度が崩壊の危機にあると警告

イスラエルによる軍事作戦の激化により、大規模な住民避難が深刻化し、食糧、水、医薬品、燃料、避難所などが著しく不足する中、すでに弱体化している医療制度は引き続き脅威にさらされている。WHO は、あらゆる可能な経路を通じて、ガザへの大規模な援助の受け入れと、人道支援が、その場所に関係なく、妨げられることなく、人々に届くよう求め、即時かつ永続的な停戦を求める。

5月のWHOファクトシート改訂項目

以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。

<https://japan-who.or.jp/factsheets/>

- ・質の高い医療サービス
- ・肥満と過体重
- ・緊急時のメンタルヘルス
- ・難民と移民のメンタルヘルス
- ・健康の社会的決定要因

6月
June

RS ウイルス感染症 (RSV) から乳児を保護する予防接種: WHO

WHO は、世界中で小児の急性下気道感染症の主な原因である RS ウイルス感染症から乳児を保護するための予防接種製品に関する初のポジションペーパーを発表。乳児における重篤な RSV 感染症の世界的な負担に対応するため、すべての国に母親用ワクチン「RSVpreF」またはモノクローナル抗体「ニルセビマブ」のいずれかの導入を推奨。

エムポックス (mpox)、引き続き国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態 (PHEIC) に

WHO 事務局長は、mpox 2024 の急増に関する国際保健規則 (2005 年) (IHR) 緊急委員会の第 4 回会合後「この事態が引き続き“国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態 (PHEIC)”の基準を満たしている」との委員会の助言に同意し、改訂された一連の暫定勧告を発布。

成人に対する予防接種の拡大を

成人に対する予防接種は依然として見過ごされており、“Vaccines”に掲載された WHO の研究では、医療費の増加や薬剤耐性という課題に対処しながら「健康的な高齢化を実現するための成人における予防接種の重要性」を強調。

化学物質の危険性に関する 4 つのオンラインコースを開設

WHO は化学物質による事故を安全かつ効果的に管理できる医療従事者、緊急対応要員、技術パートナーの能力強化を図るため、化学物質の危険性に関する 4 部構成の新しいオンライン学習シリーズの開発を開始。

WHO 第 13 次 総合事業計画の評価: エグゼクティブ・サマリー

第 13 次 総合事業計画 (GPW 13) の事業評価の主な目的の一つは、成果フレームワークの妥当性、およびその設計の堅牢性を評価することで、成果の連鎖のさまざまなレベル間の関連性を検証し、プログラムの実施全体におけるデータ収集と報告の有効性を探ること。

知識移転とエビデンスに基づく政策立案に関するグローバル研究アジェンダ

WHO はウェビナーにおいて、知識移転とエビデンスに基づく政策立案に関するグローバル研究アジェンダを発表。

極度の暑さから、労働者とイベント参加者を守る: 「Beat the Heat」イニシアチブ

職場や大規模イベントにおける猛暑や

環境上の危険に対処する取り組み「Beat the Heat」は、労働者、参加者、地域住民を、極端な暑さや太陽紫外線、屋外の大気汚染などの環境上の危険から保護し、十分な飲料水と衛生設備を提供することを目的としている。

「障害者の健康の公平性」: WHO グローバルイニシアチブを開始

世界には 13 億人以上の障害者がおり、その多くは、医療制度内外の公平性を欠き、健康格差に直面。グローバルなメカニズムが緊急に必要。

「タバコ規制は 61 億人を守る」- WHO の新報告書

WHO は、「2025 年の世界的なタバコエビデミック」に関する報告書を発表し、タバコ規制の進展を維持・加速するための行動が必要であるとの警告を発した。

安全な水と衛生システムを支援するための 54 件の病原体に関する背景文書を公開

WHO は、水系感染症に対する世界的な取り組みを強化するため、飲料水および衛生設備に関連する病原体に関する最新の科学情報をまとめた 54 件の WASH 関連病原体に関する新しい技術背景文書を発表。

注) 本サマリーは、WHO 発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているもので、詳細内容については、QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリース、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。



健康上の脅威から世界をより安全にするイノベーションを推進：WHO ハブ（ベルリン）

ベルリンにある WHO パンデミック・エビデミック情報ハブは、世界中でより効果的な疾病監視を行うため、150 以上の国々を支援し、健康上の脅威をより効果的かつ迅速に検出。

市民社会がグローバルヘルスを形作る：世界保健総会

WHO 市民社会委員会が「世界保健総会決議の策定における市民社会の関与」報告書を発表。

WHO、鎌状赤血球症の女性に対する妊娠ケアの改善に向けた初のグローバルガイドラインを発表

世界保健機関 (WHO) は、「妊娠中の SCD の管理に関する初のグローバルガイドライン」を発表。これは、女性と赤ちゃんの両方に生命を脅かす結果をもたらす可能性のある、深刻かつ増大する健康問題に対処するためのもの。この出版物は、妊娠中の非感染性疾患の管理に関する WHO の新しいシリーズの第 1 号。

WHO は助産ケアモデルの世界的な拡大を呼びかけ

世界保健機関は、各国が助産師ケアモデルを採用・拡大支援のための新しいガイダンスを発表。

家族計画関連コンテンツを改善するための新デジタルツールキット

WHO は、国連 HRP (リプロダクティブ・ヘルス) 研究特別プログラムの専門知識を活用し、開発者や医療従事者が家族計画に関する情報を提供するデジタルツールの品質向上を支援することを目的とした新しいリソースを発表。

セマグルチド製剤の使用と非動脈性前部虚血性視神経症 (NAION) リスク

WHO は、2 型糖尿病と肥満の治療に用いられるセマグルチド製剤 (Ozempic®, Rybelsus®, Wegovy®) の使用に伴う非動脈性前部虚血性視神経症 (NAION) のリスクについて、医療従事者および規制当局に警告を発した。

WHO の「障害と健康の公平性」イニシアチブを開始：パートナーが連携

WHO は、障害者の健康の公平性を推進するための画期的なグローバルイニシアチブ「WHO 障害と健康の公平性イニシアチブ」を立ち上げ。

エネルギー進捗報告書 2025：SDG 7 の進捗状況

この報告書では、分散型再生可能エネルギーがアクセス拡大を加速する役割を強調。

WHO 科学諮問グループが COVID-19 の起源に関する報告書を発表

WHO 新規病原体の起源に関する科学諮問グループ (SAGO; Scientific Advisory Group for the Origins of Novel Pathogens) は、COVID-19 パンデミックの原因である SARS-CoV-2 の起源に関する報告書を公表。COVID-19 の起源に関する主な仮説の入手可能な証拠を検討し「入手可能な証拠の重みから、コウモリから直接、あるいは中間宿主を介しての動物からの感染が示唆される」と結論付けた。しかし、現在まで、中国は SAGO および WHO にこれらの情報を提供されておらず、WHO は、将来のパンデミックから世界を守るため、COVID-19 の起源に関する情報を持つ中国およびその他の国々に、その情報を公開するよう引き続き呼びかけ。

6月のWHOファクトシート改訂項目

以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。
<https://japan-who.or.jp/factsheets/>

・たばこ ・HIV薬剤耐性 ・白癬 ・血液の安全と活用 ・単純ヘルペス ・性感染症 (STI) ・梅毒